

【 From Kobe 2015年11月 】 2015年秋便り

1. 2015年秋便り
2. 久しぶりに海外 台北の街へ
3. 山口県西長門 懐かしい 特牛の港のこと
4. またぞろ起きたモノづくり現場の偽装問題 この中に潜む日本の体質

1. 2015年秋便り



2015年の深まりゆく秋 真っ青な空に野山も里も紅葉が始まり、秋真っ只中  
スポーツに また 自然を訪ねて 戸外に遊ぶのもよし  
秋の日暮れは つるべ落とし 自室にこもり 秋の夜長をゆっくりと過ごすのもよし



## 2. 久しぶりに海外 台北の街へ 大学同窓仲間と



久しぶりに海外へ 台北にいる仲間が招いてくれて 同窓の仲間 15 人ほどで台北へ

飛行機の切符も通関もそして飛行機も見るもの間くものみんな新しく 完全なお上りさん状態で行ってきました。

台北は高層ビルが立ち並ぶ大都会 かつての日本統治時代の建物も緑の中に点在する美しい街。街の標識はみな漢字だし、みんな本当に親切で、神戸の街を歩いているのと変わらず。自動車社会になったとはいえ、通勤ラッシュのバイクの列は かつて 東南アジアの街で見たのと同じ。 活気あるアジアの大都会でした。

一番びっくりしたのは 大都会にありがちなスラムが全く見られず、食事の安さにも。 台湾ビールに紹興酒を飲んで 台湾料理も口に合って 念願の故宮博物院にも行ってきました。



台北の街歩き 2015. 10. 19. &10. 20.

台湾が取り巻く環境は複雑 国民党政権化で戒厳令の下大陸と対峙した時代を経て、大陸との交流が蜜月の時代にはいり、経済ばかりでなく、人的交流も盛んで 数多くの大陸の人達が今 台湾に押し寄せている。

一方 街には 蒋介石・国民党の功績をたたえる巨大モニュメントもあり、香港のように大陸の一部に組み込まれてゆくのか

それとも大陸から独立独自路線を維持するのか 来年 1 月に総統選挙 台湾の人達の思いは複雑と。

今のところ 大陸との融和路線をとってきた国民党政権に代わって、現状維持独自路線の新民党が優勢と聞く。

戦後 国民党とともに大陸からやってきた人たち そして国民党権化で戒厳令で抗日・抗大陸を経験し、厳しくも清廉な日本統治時代を懐かしむ高齢層 そして戦争を知らず台湾の繁栄をまのあたりしてきた若者たち

それぞれの思いを込めた総統選挙。そんな 台湾の人達の思いも垣間見てく来ました。 でも 本当に日本人には親切。情報社会の真っただ中の日本にいますが、やっぱり 想像をめぐらすだけではだめだと。



《台湾・台北の印象》

- ◆ 台北市街地が本当に美しく整備され、大都市にありがちな貧民街が見られなかったことに台湾の今の裕福を感じました。また、一戸建ての住宅がほとんど見当たらず、新旧取り混ぜた高層住宅群であることや、台湾も日本度同じく高齢化が進んでいると思っていましたが、巷に高齢者が少なく、若者が多いのにもびっくり。
- ◆ 地下鉄網・台鉄・台高鉄が集約され、地下に収まる路線網 そして大規模な地下街や基盤の目の広い道路・交通網をした精もあるが、インフラ整備・IT化が日本以上に進んでいるとの印象。ここでも日本優位はすでに崩れていると。
- ◆ 知っているようで知らなかった故宮博物院の宝物。ガイドさんが「豚の角煮と白菜」というのを一体なんや??? と思っていましたが、メノウ・翡翠原石から切り出された宝物。本当にみためにもそっくり。これは宝物や……と。
- ◆ 台湾料理に紹興酒・ビールも楽しみでしたが、本当においしかった。どちらかという中華料理はこってり系と思っていましたが、あっさり系で実においしかった。紹興酒に台湾ビールも
- ◆ 台北市内名所ツアーはよく知らなかった台湾の現実を知る本当に良い機会でした。
  - 大陸からあんなに沢山の観光客が台湾に押し寄せているとは全く知らず、意外。台湾と大陸の共存融和路線のすごい進展にびっくり。知りませんでした
  - 蒋介石の記念堂 中正記念堂と台北228記念館 で知った台湾の今の現実
  - 街の随所に残る旧日本統治時代を今に残すレンガ色の建築物群と旧日本統治時代に愛着を寄せる親日の人達とその高齢化 そして街角で接した本当に親切な台湾の人達 大陸の人達のイメージとの落差
  - 台湾の夜市は初めて 東南アジアの夜市を思い出しながら久しぶりの感覚を楽しみました。夜の街も地下鉄も全く気にせず歩ける台北の街
- ◆ 徴兵制が時代とともに大きく変化し、若者の意識も大きく変化する今、大国主義を掲げ、世界経済をも左右する伸展を遂げた大国中国とどう向き合ってゆくのか??? 大きな岐路にある台湾 現実と向き合わねばならぬそれぞれの世代も複雑な思いの中にあること理解 本当にむづかしいと...台湾にきて 初めて知った現実です。

台湾 2.28事件と228記念館(旧台湾放送協会本部)

展示写真など撮らなかったので記述のみ  
 インターネット 台北二二八記念館 <http://www.taipeinavi.com/miru/34/> に  
 展示詳細が記述されているのでそちらをご覧ください。  
 二二八事件とは、蒋介石・国民党政府が40年にもわたる戒厳令を敷くことになっ  
 たきっかけであり、外省人(戦前から台湾にいた人)を虐殺した事件である。



二・二八事件(にいにいちぢけん)は、1947年2月28日に台湾の台北市で発生し、その後台湾全土に広がった。当時はまだ日本国籍を有していた本省人(台湾人)と外省人(在台中国人)との大規模な抗争。1947年2月27日、台北市で闇菸草を販売していた本省人女性に対し、取締の役人が暴行を加える事件が起きた。これが発端となって、翌2月28日には本省人による市庁舎への抗議デモが行われた。しかし、憲兵隊がこれに発砲、抗争はたちまち台湾全土に広がることとなった。本省人は多くの地域で一時実権を掌握したが、国民党政府は大陸から援軍を派遣し、武力によりこれを徹底的に鎮圧した。1945年に日本が敗戦した後の台湾には、連合国軍の委託を受けて、日本軍の武装解除を行うために大陸から蒋介石率いる中国国民党政府の官僚や軍人が進駐し行政を引き継いだ。当初、少なからぬ本省人が台湾の「祖国復帰」を喜び、中国大陸から来た国民党政府の官僚や軍人らを港で歓迎したが、やがて彼らの腐敗の凄まじさに驚き、失望した。大陸から来た軍人・官僚は国共内戦の影響で(精鋭と呼べる人材は大陸の前線に送られており)質が悪く、強姦・強盗・殺人を犯す者も多かったが、犯人が罰せられぬことがしばしばあり、もし罰せられる場合でも、犯人の省籍をマスコミ等で報じることは厳しく禁じられた。また、台湾の資材が中国人官僚らによって接収・横領され、上海の国際市場で競売にかけられるに到り、台湾の物価は高騰、インフレによって企業の倒産が相次ぎ、失業も深刻化した。不正の少なかった日本の統治を体験した台湾人にとって、治安の悪化や役人の著しい腐敗は到底受け入れがたいものであった。人々の不満は、いやが上にも高まっていった。当時の台湾人たちは、「犬去りて、豚来たる(中国語:狗去猪来)」と揶揄した。(意味:犬(日本人)はうるさくても役に立つが、豚(国民党)はただ貪り食うのみ)

インターネット ウィキペディアより  
 ガイドさんの話や展示で受けた私の印象とほぼ同じ記述だったので、転載させていただきました

複雑な政治情勢下に置かれる台湾 本省人とと言われる人の中にも強く複雑な思いがあることを知りました。また 今の経済情勢そして、あの数多くの大陸からの観光団 そして戦争を知らぬ若者層と高齢者との間隔のずれ等々。今台湾の方向が強く意識されている時代に、台湾の中も本当に複雑なんだと初めて知りました。



2015.10.19&20 台北で撮ったスナップ

### 3. 特牛イカの水揚げ港 山口県西長門海岸「特牛」の港

NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て 2015. 10. 23.



「特牛」と書いて、「こっとい」と読む。「特牛港」に「特牛イカ」って ご存じでしょうか??

山口県の日本海側 西長門の美しい海岸沿いにあり、すぐ東の油谷半島は阿部総理の故郷でもある。

JR 山陰線の「特牛駅」は日本一難解の駅としても有名。

その「特牛漁港」が、NHKの定点観察ドキュメント番組「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」として放映された。

イカの大漁場 響灘に日本各地から集まるイカ釣り船が、鮮度が命のイカを特牛漁港に急行してセリにかける。そんな特牛漁港に入るイカ釣り船の漁師さんたちを 72 時間を追う番組だった。

私が約 10 数年前 山口県的美祢で仕事をしていた時、美しい夕日と海流が流れるのが見られる美しい海岸として、何度も通った港で、この港にスポットが当たるなんて・・・とびっくり。

今はもう美しいコンクリートのアーチ型の橋が架かったが、当時は向かいの角島への連絡船があり、イカ釣り船の漁港としてもちょっとは知られた小さな漁港でしたが、その後、角島に橋が架かり、神戸に帰ったこともあり、特牛の港も忘れかけていたところでした。でも、特牛港というと今もイカ釣り船がすぐ頭に。この山口美祢時代の生きた剣先イカは本当に美味で、今やイカの刺身は私の大好物。 家内は美祢の時代に街の魚屋さんに教えてもらって この生きた剣先イカやスルメイカの表面の皮をはいで、くるくると身を丸めて冷凍保存。好きなときに解凍してイカのサシミを食べる技も身に着け、いまでも冷蔵庫にはそんなイカが入っている。そんな 街でいつでも手に入った西長門のイカが、今や「剣先イカの王様 特牛イカ」としてブランド化され、東京や大阪などで、ひっぱりれだこの高級イカ。 高値を狙う日本各地の漁船が先を争って、この特牛の港で水揚げし、またすぐ漁場にもとってゆくという。ここに上がったイカだけが「特牛イカ」と名乗れるビックリのビジネスモデルが構築されていると聞く。

最近山口へ行く機会もなくなって、ちょっぴり寂しくなっていた時のうれしいニュースに目を凝らしてみました。

夜 コウコウと明かりをつけ操業するイカ釣り船が夜の海に点々とともす漁火もまた、懐かしい。

久しぶりに よく通った西長門の海岸 特牛港の賑わいを聞いて、うれしくなって 11 月の便りに。

この西長門海岸 今は角島大橋と角島海岸が美しいスカイラインとして 若者たちに人気になりましたが、日本海に沈む夕日とともに 美しい海岸線を眺めながら、すぐ北にある角島との間をゆったり海流が流れてゆく様を眺め、ゆったりと長門の温泉につかる一日も忘れられぬ山口・美祢の時代の思い出。 機会があれば、ぜひ一度どうぞ

2015. 10. 23. NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て



#### 4. またそろ起きたモノづくり現場の偽装問題 この中に潜む日本の体質

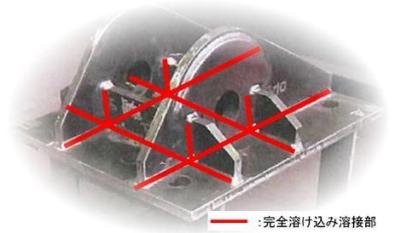
この夏 京都市内の道路橋2橋の耐震補強工事で、補強部材に溶接不良による亀裂が見つかった。すぐに問題が起こらないが、完全溶け込みの溶接設計部をどうも意図的に部分溶け込み溶接で済まされた部品だといひ、この部品を作った会社ではほかの橋の部品にも同じような施工が行われていたという。表面から見た目ではわからぬ意図的な施工のようだ。またしても 溶接部で意図的な偽装施工が行われたか……と。

溶接と常にかかわって仕事をしていた私にとって、高度成長の終末期 IT・国際競争・コスト・スピード・人員削減を至上を至上命令とされ、現場が疲弊していった時代が頭に浮かんでくる。 またも繰り返すのか… それも溶接が最初にやり玉に…との思いがある。

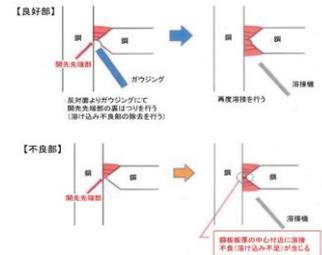
納期・コスト・人材など厳しい締め付けが行われる施工現場。時代がおかしくなってくるといつも一番弱いところから こんな問題がいつも露呈する。

時代の変わり目 変な時代の今「他の分野からも同じような問題が続々と出てくるだろうなあ…」と置いていたら、耐震ゴムの品質偽装に マンションの基礎くい打ち偽装と次々大きな社会問題を引き起こしている。

そして、こんなことは絶対しない国民性だと思っていたドイツの巨大企業フォルクスワーゲンまでも。バラ色のグローバルな情報社会とは こんな社会なのか……と。



【完全溶け込み溶接イメージ】



御多分に漏れず、問題を引き起こした一企業のそれもその現場が全責任を背負わされ、それで幕引きか? . . . おかしいぞ そんな現場環境にしたルーツ原因はなになのか??? 張本人は誰だと。

問題が発覚して 精通せぬ検査提出書類を調べただけでも いくつも不審点が出てきている。

ましてや 施工検査書類を提出させた元受サイドはなぜ見抜けぬのか…。そうではあるまいと勘繰りたくなる。少なくとも検査書類など 作業の完工承認を出したサイドの責任は共同であろう。

今 日本では「日本のモノづくりは世界一」とのキャンペーンが、いたるところで張られ、毎日毎日 聞かされる。これは本当だろうか???? 強がり。このギャップの大きさ。

政治家と一緒にあって世界一と浮かれている場合ではない。凝りもせず またしても同じパターンの構図がうかがえる。今も苦しむ原発福島の実業現場も同じだろう。

現場を精通せぬ人たちが、現場を論じることのむつかしさ。現場を知らぬ幹部が現場を知っていると思い込んでいるのが一番厄介だ。そんな局面を何度か 眼にしたことがある。言葉ではなく中で本当に人を育てないと何にもならぬ。そんなプログラムを自分で持ち、現場に眼を向ける会社幹部が本当にいるのだろうか……。

眼は国際競争 global 情報・金融 そして市場の極端な至上主義になっていないだろうか……。

そんなレベルの社外監査機構を社内に持っても何の役にもならぬ。

製造現場をそのまま擁護するつもりはないが、根本のところ、常にblack ボックス神域化され、毎度生かされない日本の体質。東京の論理に歯止めをかけないと それこそ沈没だ。

昔 アメリカのあるメーカーでは それこそ 幹部から末端まで「Copy Exactly」の言葉が浸透した製造現場が構築され、実践されていたのを思い出す。弊害もあるが、その現場ラインを守る頑固なまでの厳しさには脱帽した経験がある。実を知ろうとしない「生半可な新しものがり 都合のいい組み合わせ」が本当の「モノづくりは世界一」だろうか……。そんな岐路にある日本のモノづくり。今 立ち止まって考えないとそれこそ世界から取り残されるだろう 地方から そして若者から いでよ 新しいモノづくり世界一 それが日本モデルになる日を期待。

溶接と長くかかわってきた私にとって つい溶接の話となると頭の中がぐるぐる回って、秋の夜長 ああでもない こんなこともあったと… つい ぶつぶつです。

2015. 11. 6. 秋の夜長 マンション基礎杭の偽装に頭を巡らしながら Mutsu Nakanishi